

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 調べて発表しよう 『伝え合う』ということ

2 指導観

- 本学年の子どもたちは、国語科の「話すこと・聞くこと」の単元において、次のような学習経験をしている。1学期の「伝言はまちがえずに」では、大事なことを短い言葉でメモしながら聞くことや、大事なことをゆっくり話したり繰り返して話したりすることである。
- 子どもたちの「話すこと・聞くこと」に対する意識をアンケート調査したところ、「みんなの前や先生の前で、自分の考えや思っていることを進んで話せますか。」という質問に対しての回答は、「とてもできる」が26%、「だいたいできる」が47%、「あまりできない」が22%、「できない」が5%だった。「話している人の方を向いて話を聞いていますか。」という質問では、「とてもできる」が58%、「だいたいできる」が37%、「あまりできない」が3%、「できない」が1%だった。以上のことから、多くの子どもたちが話すこと・聞くことの活動に積極的であることが言える。
- 一方、教師の目から見たところでは、子どもたちは、理由や事例を挙げないで自分の考えのみを一方向的に話していたり、話の意味を正確に理解できずに聞いていたりするといった実態がある。このことから、4年生として必要な話すこと・聞くことの力が十分に身に付いているとは言えない状況であると考えられる。
- また、日常では、次のようなことを指導している。木曜日の朝に行われる「音読タイム」では、詩や短文などの朗読・暗唱等を行い、明るく力強い声が出せることに重点を置いて指導している。普段の学習の中では、国語科の学習に限らず、全員が発表する機会をなるべく設定し、人に正しく伝わるように話す経験を重ねているところである。
- 本単元は、資料「手と心で読む」に出会うことをきっかけに、点字などの「伝え合い」の方法に興味を持ち、自分の課題を決め、調べて発表するとともに、交流によってさらに知識を得、ものの見方・考え方を広げることをねらいとしている。このねらいを達成するためには、子どもたちには、次のような話すこと・聞くことの力が必要になる。
- 話すことについては、クラスの友達に自分の考えが分かるように筋道を立てて話すことができることである。聞くことについては、話の中心に気をつけて聞き、自分の感想をまとめることができることである。
- このように、本単元で設定する点字をはじめとした「伝え合い」について調べたり発表したりする活動は、知らせたいことの中心を話したり聞いたりする技能を伸ばしていく上で価値があると考えられる。
- 本単元の指導にあたっては、まず「つかむ」段階において、資料「手と心で読む」の読み取りや点字の写真等によって、様々な「伝え合い」の方法があることを理解できるようにする。その上で、「たくさんの人と分かり合うためにはどうすればよいか」という共通の学習課題を設定し、調べる、交流する、自分の考えをまとめる、といった過程で学習を進めていくことを確認する。
- 次に「伝え合う」段階において、点字や手話などの様々な「伝え合い」について自分の課題を設定し、調べ、1分程度で発表できるよう発表原稿を書かせる。発表に必要な資料と発表メモを準備させた後に、知らせたいことが聞く人によく分かるように、以下のような話す力を付けていく。
- 一つ目は、相手を見て、大事な言葉をゆっくり、はっきり話すことや、話のまとまりごとに間をとりながら話す力である。その際にモデルCDを使い、よい話し方とよくない話し方を聞き比べることで、知らせたいことが相手に伝わるような話し方を理解させ、その技能を身に付けさせる。
- 二つ目は、資料を見せ、必要な部分を指し示しながら話す力である。モデルビデオを使い、よい話し方とよくない話し方を比べることで、聞き手を資料に引きつける話し方を理解させ、その技能を身に付けさせる。
- また、聞く力をつけることも必要である。話の中心を聞き、感想を伝える力である。聞き取りメモのモデルを使い、よいメモとよくないメモを比べることで、メモのとり方やその工夫の仕方を理解させ、その技能を身に付けさせる。さらには、メモをもとに、聞いたことに対する感想が言えるように練習する。
- 以上のような話す力・聞く力をスモールステップによる練習で十分につけた上で、調べた課題についての発表会を行う。
- 最後に、「いかす」段階では、多くの人が「伝え合う」ということはどういうことかについての感想をグループで交流して、自分の考えをまとめたり、深めたりできるようにしたい。

こんなモデル・提示の仕方

- 速度や強弱、間のとり方を工夫して話す力をつけるために、CDを使った音声によるモデル提示を行う。その際、速度、強弱、間のとり方を工夫した話し方とそうでない話し方の二つの音声を提示し、知らせたいことが相手に伝わるような話し方について考えられるようにする。
- 資料の見せ方を工夫して話す力をつけるために、ビデオを使った映像によるモデル提示を行う。その際、資料を見せたり指し示したりしている話し方と、そうでない話し方の二つの映像を提示し、聞き手を資料に引きつける話し方について考えられるようにする。
- 話の中心に気をつけて聞く力をつけるために、拡大メモ用紙を使った文章によるモデル提示を行う。その際、話の中心を短い言葉で記号を工夫しながら書いたメモと、そうでないメモを比較して提示し、話の中心を意識する聞き方について考えられるようにする。

3 単元目標

- 様々な「伝え合い」の方法に興味をもち、工夫しながら話したり聞いたりすることができるようにする。
- 自分の調べたことや考えたことがクラスの友達に分かるように、筋道を立てて話すことができるようにする。
- 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめることができるようにする。
- 「伝え合う」とはどのようなことなのか自分なりの考えをもって話し合うことができるようにする。

4 指導計画（全14時間）

段階	配時	ねらい	学習活動	主な支援と留意点	
つかむ	2	○ 単元全体の見通しをもつことができる。	○ 様々な「伝え合い」の方法があることを理解する。 ○ 「手と心で読む」の内容を読み取り、調べたいことをまとめる。	○ 点字による伝え合いのイメージを子どもたちにもたせるため、点字の写真を見せたり、点字の実物に触れさせたりする。	
		たくさんの人と分かり合うためにはどうすればよいか。			
伝え合う	11	○ 計画に沿って、伝え合うための方法を調べることができる。	○ 自分が調べたい課題を決める。 ○ 自分が決めた課題について調べる。	○ 子どもたちに多様な課題を持たせるため、点字にとらわれず目や耳の不自由な人たちの伝え合いについて、広い観点で調べさせる。	
		○ 知らせたい中心をはっきりさせて、簡単な組み立てで発表原稿を書くことができる。	○ 調べたことをもとに、発表原稿を書く。 ○ 発表に必要な資料の準備をする。	○ 知らせたいことの中心をはっきりさせるため、「はじめ・なか・終わり」の簡単な組み立てで300字程度の原稿を書かせる。	
		本時 9/14 400 400	○ 知らせたいことが聞き手によく分かるように、話すときの視線、速度、強弱、間のとり方を工夫して話すことができる。	○ 話し方の練習をする。 〈話し方のポイント〉 ・聞き手を見て話す。 ・大事なことをゆっくりはっきり話す。 ・話のまとめりごとに間をとる。	モデル提示1 話す速度や強弱、間のとり方が分かるように、モデルCDで話し方のよい例とよくない例のモデルを比較提示する。
		本時 10/14 400	○ 知らせたいことが聞き手によく分かるように、資料の見せ方や指し示し方を工夫して話すことができる。	○ 話し方の練習をする。 〈話し方のポイント〉 ・資料を見せながら話す。 ・資料を指し示しながら話す。	モデル提示2 資料の見せ方や指し示し方が分かるように、モデルビデオで話し方のよい例とよくない例のモデルを比較提示する。
いかす	1	本時 11/14 400	○ 友達の発表の中心を聞き、自分の感想を伝えることができる。	○ 聞き方の練習をする。 〈聞き方のポイント〉 ・記号を工夫して、大事なことを短い言葉でメモする。 ・話の中心を落とさず聞く。 ・メモをもとに感想を伝える。	モデル提示3 聞き取りメモの記入のしかたが分かるように、モデルメモでメモのとり方のよい例とよくない例のモデルを比較提示する。
		○ 話し方・聞き方のポイントに気を付けて発表会をすることができる。	○ 話し方・聞き方のポイントに気を付けて、調べたことの発表会をする。	○ 調べたことを分かりやすく伝え合うために、話し方・聞き方のポイントを想起させる。	
いかす	1	○ 伝え合うということについて自分の考えをまとめることができる。	○ 感想を交流し合い、伝え合うということについて、自分の考えをまとめる。	○ 自分の考えをより深めるために、いろいろな「伝え合い」の方法や自分ができることをグループで話し合わせる。	

5 本時 (9/14)

6 本時の目標

- 発表の練習を通して、知らせたいことが聞き手によく伝わるように話すことができる。
- 知らせたいことが聞き手によく伝わる話し方をするために、モデルを通して、聞き手を見て、大事な言葉をゆっくり、はっきり話したり、間をとって話したりすることができる。

7 本時指導の考え方

本時は、課題に沿って調べてきた内容の発表練習を通して、知らせたいことが聞き手によく伝わるような話し方ができるようにすることを目標としている。その際に、モデルを使って大事な言葉をゆっくり、はっきり話したり、話のまとまりごとや大事な言葉の前で間をとって話したりすることのよさに気付かせ、その技能を身に付けさせていきたい。

前時までに子どもたちは、「伝え合う」ということについて自分の課題に沿って調べ、それをもとに発表原稿を書いている。その際「初め・中・終わり」の組み立てで、筋道立った原稿となるようにまとめていき、知らせたいことをはっきりさせた文を書くことができるようになってきている。しかし、その知らせたいことを聞き手に伝わるように話すことはまだできていない。

そこで、本時はモデル提示や発表練習の仕方を段階的に取り入れることを通して、知らせたいことが聞き手によく伝わる話し方ができるようにしたい。

本時の展開では初めに、前時、聞き手を見て話すために発表メモを書いたことを想起させ、本時のめあてをつかませる。

次に、モデル CD を使って、聞き手によく伝わる話し方を考えさせる。モデル CD では、早口ですらすらと話しているよくない例のモデルとゆっくり、はっきり、間をとりながら話しているよい例のモデルを提示し、2つのモデルを比較することで聞き手によく伝わる話し方に気付かせていく。その際、大事な言葉や話のまとまりが視覚的に分かりやすくなるよう、モデル文を提示する。また、話し方のポイントを視覚的に理解し、練習の時に参考にできるように黒板に掲示する。

その後、実際に話し方のポイントに注意しながら練習をさせる。まずは聞き手を見ながら話す場を設定する。聞き手を1回目は1人、2回目は2人にすることで、その場に応じた視線の合わせ方ができるようにしたい。話し手が話し終わったら、聞き手はアドバイスシートを用いて評価し、知らせたい内容がよく伝わったかを知らせたり、話し手の達成していない部分を具体的に出したりして次の活動が高まるようにしていく。次に、知らせたいことの部分ではゆっくり、はっきり話し、間をとりながら話す場を設定する。この時、知らせたいこととは自分の発表のどの部分かを明確にさせ、知らせたいことを意識しながら発表できるようにする。そのためにまず、モデル文を使って知らせたいことがどの部分かを確認する。その際、原稿を書くときに「中」の段落に話の中心を書いたことを想起させ、知らせたいことの部分には赤線、間をとる部分には○を付けさせる。そして実際に発表する自分の発表原稿に同じように印を付け、意識しながら話すことができるようにし、各自練習させる。その後、知らせたいことを書いた「中」の段落だけ、全文を通しての順に3人組での練習を取り入れる。その際、発表原稿を渡し、聞き手に観点が分かるようにする。

以上のことは段階的に活動を構成し、徐々に難しい段階へとステップアップできるようにしている。それにより、子どもたちは意欲をもちながら話す力を付けていくことができるのではないかと考える。

最後に、ポイントに気を付けて練習ができたかを自己評価し、1時間の学習で分かったことやできるようになったことについて文章で書かせ、伸びを称賛し、次時への意欲へつなげていきたい。

8 準備

- 教師 モデル CD、モデル文、話し方のポイントの掲示用色画用紙、アドバイスシート
- 子ども 発表原稿、発表メモ

9 本時の展開

主な学習活動	主な支援と留意点
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>めあて</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">知らせたいことが聞き手によく伝わるように話そう。</p>	<p>○ 前時、聞き手を見て話すために発表メモを書いたことを想起させる。</p>
<p>2 知らせたいことを聞き手によく伝えるための話し方を考える。</p> <p>○ モデルを聴いて、聞き手によく伝わる話し方を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き手を見て話す。 ・ 大事な言葉をゆっくり、はっきり話す。 ・ 話のまとめりごとや大事な言葉の前で間をとる。 </div> <p>3 知らせたいことを聞き手によく伝えるための話し方を練習する。</p> <p>(1) 聞き手を見て話す練習をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 2人組で話す練習をする。 ② 聞き手はアドバイスシートを用いてアドバイスする。 ③ 役割を交代し、練習する。 ④ 3人組で同様に練習する。 <p>(2) 知らせたいことの部分ではゆっくり、はっきり話し、間をとる練習をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① モデル文の中で、知らせたいことに印を付ける。 ② 自分の発表原稿の知らせたいことに印を付け、各自練習する。 ③ 「中」の段落の練習をする。 ④ 聞き手はアドバイスシートを用いてアドバイスする。 ⑤ 役割を交代し、練習する。 ⑥ 全文を通して練習する。 <p>4 今日の学習を振り返る。</p> <p>○ ポイントに気を付けて練習ができたかを自己評価し、今日の学習の感想を書く。</p>	<p>○ 話し方のポイントを視覚的に理解できたり、練習の時に参考にしたりすることができるよう黒板に掲示する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>○ よくない例とよい例の2つのモデルを提示し、比較して考えられるようにする。</p> <p>○ 大事な言葉や話のまとめりが視覚的に捉えやすくなるよう、モデル文を提示する。</p> </div> <p>○ 聞き手を1回目は1人、2回目は2人にして、その場に応じた視線の合わせ方ができるようにする。</p> <p>○ 聞き手は、知らせたい内容がよく伝わったかどうかを知らせたり、話し手の達成していない部分を具体的に出したりして、次の活動が高まるようにしていく。</p> <p>○ 知らせたいことを原稿の「中」の段落に書いたことを想起させる。</p> <p>○ 発表の時に意識して話せるように、ゆっくり、はっきり話す部分には赤線、間をとる部分には○を付けさせる。</p> <p>○ 発表原稿を聞き手に渡し、発表の観点が分かるようにする。</p> <p>○ 1時間の学習で分かったことやできるようになったことについて文章で書かせる。</p>

5 本時（10／14）

6 本時の目標

- 話し方の工夫に気を付けて発表練習をすることを通して、聞き手を意識して自分の一番知らせたいことがよく伝わるように話すことができる。
- 知らせたいことが聞き手によく伝わる話し方をするために、モデルを通して、知らせたいことの内容を中心を話す時に資料を見せたり、資料を指し示しながら話したりすることができる。

7 本時指導の考え方

本時は、聞き手を意識しながら話し方の工夫に気を付けて発表練習をすることを通して、知らせたいことが聞き手によく伝わるように話すことができるようにすることを目標としている。その際に、モデルを使って知らせたいことの内容を中心を話す時に資料を見せたり、資料を指し示しながら話したりすることのよさに気付かせ、知らせたいことが聞き手によく伝わる話し方ができるようにしたい。

前時までには子どもたちは、知らせたいことを聞き手に伝えるための話し方の練習を通して、話し方の工夫について学習し、聞き手を見ながら話したり、大事な言葉をゆっくりはっきり話したり、知らせたいことの前に関をとったりすることができるようになってきている。しかし、相手意識をもって、自分の一番知らせたいことがわかるように伝えることはまだできていない。

そこで本時は、聞き手を意識した発表練習を通して、自分の一番知らせたいことが聞き手によく伝わるように話すことができるようにしたい。

まず初めに前時に学習した聞き手に伝わる話し方のポイントである「聞き手を見ながら話すこと」「大事な言葉をゆっくり、はっきり話すこと」、「知らせたいことの前に関をとること」を振り返り、これらのポイントに気をつけながら、グループで一人ずつ原稿の発表練習をする。そして、本時も前時と同じ「知らせたいことが聞き手によく伝わるように話そう。」というめあてで学習していくことを知らせ、さらに聞き手によく伝わる話し方のポイントを見つけて練習していこうという意欲を喚起させる。

ここでモデルビデオを全員で見る。資料を見せたまま発表しているもの（よくない例）と、知らせたいことの内容を中心を読む時に資料を見せ、指し示しながら発表しているもの（よい例）を比較させる。後者の発表の仕方の何がよかったかを考えさせ、後者の方が聞き手の「何だろう？」「もっと聞きたい」という思いが強くなり、より聞き手が興味をもって聞き、知らせたいことがよく伝わることに気付かせる。絵カードを掲示し、視覚的にも捉えやすくする。


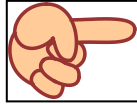
次に「知らせたいことの内容を中心を読む時に資料を見せる」「資料を指し示しながら見せる」というポイントを意識しながら、前時と同じ3人1組のグループで発表練習をする。この時に資料を見せたり、指し示したりする目安として、自分の発表原稿の中の「これは～」「この～」という言葉に着目させる。また「この〇〇を見てください」というような文章を付け加えてもよいことを指示しておく。一人ひとりの練習時間を十分に確保できるように、練習は教師が時間を計り、「始め」「終わり」の合図を出すようにする。またアドバイスはアドバイスシートにある観点をもとに簡単にすることを指示しておく。

最後に今日の学習で身に付いた力を実感できるように、自己評価させ、感想を書かせる。

8 準備

- 教師 モデルビデオ、話し方のポイントの掲示用色画用紙、掲示用絵カード、アドバイスシート
- 子ども 発表原稿、発表メモ

9 本時の展開

主な学習活動	主な支援と留意点
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 話し方のポイントを振り返り、ポイントに気を付けながら発表練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手を見ながら話す。 ・大事な言葉をゆっくり、はっきり話す。 ・知らせたいことの前に間をとる。 <p>(2) 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて _____ 知らせたいことが聞き手によく伝わるように話そう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を振り返りながら話し方のポイントを掲示していく。 ○ さらに聞き手によく伝わるポイントを見つけて練習していこうという意欲を喚起させる。
<p>2 知らせたいことが、聞き手によく伝わる話し方の工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ モデルビデオ（よくない例，よい例）を見て、聞き手に伝わる話し方について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知らせたいことの中を読む時に絵を見せる。 ・ 絵を指しながら話す。 </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>モデルビデオを見て比較させることで、聞き手に「何だろう？」「もっと聞きたい」と思わせるための資料の使い方の工夫に気付かせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2つのポイントが分かるように、絵カードを提示する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
<p>3 知らせたいことを聞き手によく伝えるための話し方を練習する。</p> <p>(1) 自分の原稿の中で「絵を見せる場所」「絵を指す場所」に印を付ける。</p> <p>(2) 各自練習をする。</p> <p>(3) グループで練習をする。</p> <p>(4) 聞き手はアドバイスシートを用いてアドバイスする。</p> <p>(5) 役割を交代して練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 印を付ける所を見つけやすいように、印を付ける所は、「中」の段落にあること、「これは～」「この～」という言葉を探し出すことを、モデル文を使って教師と確認する。 ○ 練習の順番は教師が指示し、1人が練習している間、残り2人は聞くようにさせる。 ○ 聞く観点が明確になるように、1回目の練習では今日の2つのポイントについてアドバイスし、2回目からは、前時までのポイントも合わせてアドバイスしていけるよう知らせる。
<p>4 今日の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ポイントに気を付けて練習ができたかを自己評価し、今日の学習の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1時間の学習で分かったことやできるようになったことについて文章で書かせる。

5 本時 (11 / 14)

6 本時の目標

- 対話練習を通して、話の中心に気を付けて聞き、感想を伝えることができる。
- モデルを通して、工夫してメモしながら話の中心を聞く技能を身に付けさせ、聞いたことに対しての感想を話し手に伝えることができる。

7 本時指導の考え方

本時は、メモをとりながら話の中心を聞き取ることができるようにすることを目標としている。その際に、モデルを使って、メモは大事なことのみを短い言葉で書く、記号を工夫して書くなど、話の中心を聞くための方法を理解させ、その技能を身に付けさせていきたい。さらには、聞いたことをもとに、話し手に感想を伝えさせることで、話の内容や話し方に関心をもって聞くことができるようにしたい。

前時までに子どもたちは、点字など様々な「伝え合い」について調べたことをもとに発表原稿を作成し、話す速度や強弱、間のとり方の工夫や資料を見せながら話すなど、話し方の技能を高める学習をしてきた。しかし、話の中心に気を付けて聞いたり、聞いたことをもとに感想を伝えるといった聞き方の技能については、未習得である。

そこで、本時は「聞くこと」に焦点を当て、メモをとりながら話の中心を聞く技能を身に付けさせるための学習を行う。話の中心を聞くことをねらいつつも、単にメモをとるといった相手の話を一方的に聞き取る活動から、聞いたことをもとにして話し手に感想を伝えるといったように、徐々に対話をしながら話したり聞いたりする活動へとステップアップさせていきたい。

本時の展開では、初めに、話の中心を聞くための方法としてメモをとること、聞いたことをもとに感想を伝えることの2点を挙げて学習することを確認する。

まず、モデルメモをもとにして、メモをとりながら聞く練習をする。モデルメモは、聞いた言葉をそのまま書いてあったり、必要なことが抜け落ちたりしているよくない例のモデルと、大事なことのみを短い言葉で書いたり、記号を工夫して書いたりしたよい例のモデルとを比較して提示する。このことで、メモは大事なことを短い言葉で書くこと、記号などを工夫して書くこと、話の中心となる大事なことを落とさずにメモができるようにする。その際、確認したメモのとり方のポイントをキーワードで示し、メモのとり方の参考にさせる。児童のメモの中からも工夫しているものは拡大提示して取り上げ、メモのとり方の工夫が全員で理解できるようにする。その後も何度か繰り返しメモをとる練習を行い、話の中心に気を付けて聞くことができるようにする。

次に、聞き取ったことをもとに話し手に感想を伝える練習を行う。感想のモデルについては、友達の発表を聞いて初めて分かったこと、友達の発表と自分が調べたことを比べたことの2つを文章で提示し、選択して感想が言えるようにする。実際に友達同士で話し手と聞き手に分かれて対話活動を行い、発表会の最終練習を行う。

以上のことは、スモールステップでの活動を構成し、易から難へと少しずつ変化をつけながら何度も繰り返して聞く活動をする。このことで、意欲をもち続けて聞く活動に取り組み、かつ、聞く力を伸ばすことができるであろうと考える。

最後に、1時間の学習でどんなことが分かったか、どんなことができるようになったかについて感想を書かせ、子どもたちの伸びや頑張りを賞賛し、次時の発表会の活動への意欲付けを行いたい。

8 準備

- 教師 モデルメモ、キーワード用色画用紙、モデル文、プロジェクター
- 子ども 発表資料、発表メモ

9 本時の展開

主な学習活動	主な支援と留意点
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大事なところを落とさないようにメモをとりながら聞く。 ・友達の発表を聞いた後には感想を伝える。 <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>話の中心に気をつけて聞き、自分の感想を伝えよう。</p> </div>	<p>○ 子どもたちに学習の見通しをもたせるために、聞く活動に絞って学習を行うことを知らせる。</p>
<p>2 メモをとりながら聞く練習をする。</p> <p>(1) 教師の読み上げる例文を聞きながらメモをとる。</p> <p>(2) メモモデルを見て、メモの工夫の仕方を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・大事な言葉を短く書く。 ・記号を工夫する。 ・話の中心を必ず書く。 </div> <p>(3) 教師の読み上げる例文を聞きながら、工夫してメモをとる練習をする。</p> <p>(4) メモのとり方をさらに工夫して、メモをとりながらも、話し手や資料を見ながら教師の読み上げる例文を聞く。</p>	<p>○ 聞く活動に無理が生じないようにするために、子どもたちのメモのとり方を確認しながら、例文はゆっくり、間を取って読み上げる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>提示したモデルのいいところをとらえやすくするために、よい例のモデルメモとよくない例のモデルメモを比較して提示する。</p> </div> <p>○ どんなメモを書けばよいかを分かりやすくするために、メモのとり方のポイントを短いキーワードで表示する。</p> <p>○ 全員がメモの仕方を工夫しながら話を聞くことができるよう、何度か繰り返してメモをとる練習をさせる。</p> <p>○ 児童の書いたメモの工夫を全員で共通理解ができるよう、児童の中から工夫しているメモを拡大して提示する。</p> <p>○ 必要な箇所では話し手を見ながら聞くことができるよう、写真や絵を見せる言葉かけをしながら教師が例文を読み上げる。</p>
<p>3 メモをもとにして感想を伝える練習をする。</p> <p>(1) 発表を聞いた後に感想を伝える必要性を確かめる。</p> <p>(2) 感想のモデルを見て、感想の伝え方を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇さんの発表を聞いて、～ということが初めて分かりました。」 ・「〇〇さんが調べたことと自分が調べたことを比べると、～でした。」 </div> <p>(3) メモをとりながら教師の読み上げる例文を聞いて、自分の感想を伝える練習をする。</p> <p>(4) グループで発表の練習をし合い、聞いたことをもとに自分の感想を伝える。</p> <p>4 今日の学習を振り返る。</p> <p>○ ポイントに気を付けて練習ができたかを自己評価し、今日の学習の感想を書く。</p>	<p>○ 聞いた後に感想を述べる必要があることに気付かせるために、数人の子どもを前に出させて発表と感想のやりとりを演じさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>感想の視点を持たせるため、感想のモデルを文章で提示し、誰もが感想を言えるようにする。</p> </div> <p>○ 聞き取ったことをもとに感想を伝えられるよう、メモを見ながら感想を伝えてよいことを助言する。</p> <p>○ 様々な視点で感想が述べられるよう、モデルで示した視点以外にも、感想を述べてよいことを助言する。</p> <p>○ 1時間で身に付けた聞く力を実感させるために、メモのとり方と感想の言い方についての感想を書かせる。</p>

10 モデル文

モデル文 (4年〇組, 〇組, 〇組本時)

ぼくは、身の回りにある点字をさがしてみようと思って、本で読んだり母にきいたりしました。

その中で、点字ではないのですが、さわって分かるように工夫されたものを見つけました。

これは、どこにでもある電話機ですが、この、「5」のボタンの上に小さな出っぴりがあります。目の不自由な人は、数字のならば方を覚えて、「5」をたしかめてから使うのだそうです。

こんな小さな出っぴりが、とても大切な役わりをしていることを知っておどろきました。

聞き取りメモのモデル (4年〇組本時)

感想のモデル (4年〇組本時)

発表者	〇〇さん
話のないよう	電話機 ⑤の上の・ 数字——覚える ・↓大切な役わり

発表者	〇〇さん
話のないよう	ぼくは、身の回りにある点字を… その中で、点字ではないのですが…見つけました。これは、どこにでも… 目の不自由な人は、数字のならば方を覚える。こんな小さな出っぴりが、とても大切な役わりをしている…。

〇〇さんの発表を聞いて、くということが初めて分かりました。
〇〇さんが調べたことと自分が調べたことをくらべると、くでした。

1 1 伝え合う力が育つための「話すこと・聞くこと」の単元を中心とした年間計画 4年

時期	単元・題材・ねらい 話題・相手・形態	話す力	聞く力	話し合う力
4月	本と出会う，友だちと出会う 「三つのお願い」	○ 聞く人の方を見て，一度で聞き取れる音量や速さで話す。	○ 話す人の方を見て，共感的に聞く。	○ 意見を言うときには，理由を伝える。
5月	段落のつながりに気をつけて読もう 『かむ』こと力	○ 発表にふさわしい言葉遣いで話す。 ○ 聞く人の反応を確かめながら話す。	○ 共感・反発・疑問などの反応を示しながら聞く。	○ 感想や自分の考えを発表する。
6月	大事なことを落とさずに話したり聞いたりしよう 「伝言はまちがえずに」	○ 大事なことを落とさず，筋道を立てて適切な言葉遣いで話す。	○ 大事なことを確かめながら，短い言葉でメモを取りながら聞く。	
7月	本と友達になろう 「白いぼうし」	○ 考えやその理由をはっきりさせて話す。 「ぼく（わたし）は△△なので…だと思ひます。」	○ 話す人の意図を考えながら聞く。	○ 自分の感想をまとめ発表する。
9月	調べて発表しよう 『伝え合う』ということ	○ 自分の考えが伝わるように，筋道を立てて話す。	○ 話の中心に気をつけて聞き，自分の感想をまとめる。	○ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら話し合い，自分の考えを深める。
10月	場面を比べて読もう 「一つの花」	○ 思ったことや考えたことを文章を根拠に話す。 「ぼく（わたし）は△ページに□□と書いてあるので…だと思ひます。」	○ 友達の考えをしっかりと聞き取る。	○ 自分の感想と友達の感想の相違点や共通点を考えながら話し合う。

11月	材料の選び方を考えよう 「四年三組から発信します」	○ 相手や目的に応じた話し方で話す。 ○ 意図をはっきりさせて話す。	○ 話し手の良さを考えながら聞く。	○ 取材したことを分かりやすく伝え合う。
12月	調べたことを知らせよう 「生活を見つめて」	○ 事柄ごとにまとめ、順序を考えて話す。	○ 話し手の良さを考えながら聞く。	○ 調べたこと、分かったことをグラフや表に整理して発表する。
1月	よりよい意見にまとめよう 「話し合って決めよう」	○ 賛成・反対などの立場をはっきりさせて話す。 ○ 体験したことや、知っていることを例に挙げて話す。	○ ほかの人の意見を取り入れながら聞き、よりよい案を考える。	○ 友達と互いの考えや相違点を理解しながら、意見をまとめるために話し合う。
2月	言葉って、おもしろいな 「言葉遊びの世界」	○ 言葉遊びのおもしろさが伝わるように工夫して話す。	○ 友達が考えた言葉遊びを聞いて楽しむ。	○ 自分たちで考えたり調べたりした言葉遊びをまとめて、グループごとに発表すう。
3月	学習したことを生かして 「ごんぎつね」	○ 自分の考えを理由や根拠をあげて話す。	○ 話し手の考えと自分の考えを比べながら聞く。	○ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら話し合う。
生 か す 場 場 場	<p>朝の会でのスピーチ…子どもたちが意欲的に話せるようなテーマを設定する。</p> <p>音読タイム…リズムよく音読したり、役割に分かれて声が出せたりする内容のものを選ぶ。</p> <p>その他の教科…グループ活動を多く取り入れ、話し合いをしながら学習を進めていけるようにする。</p> <p>総合…自分が調べたことや考えなどを発表する場面などに生かしていく。</p>			